令和８年度　三次市立川地小学校だより

高こうし志

自ら進んで考える子
かかわりあう子
心も体も健康な子

学校教育目標：ふるさとを愛し、高い志をもつ児童の育成

文責：校長　原田和明

学力の分析～授業改善につなげる

今回のわかば学級の玄関掲示は「秋」をテーマに、カラフルにまとめてくれました！

《No. ８》
令和8年10月30日



１０月も終わりになり、朝晩が寒く感じるようになってきましたね。全国的には早くもインフルエンザも流行しているようですが、まだ、川地小学校はその波は来ていないようです。

さて、前回の学校だよりで「全国学力・学習状況調査」や「三次市学力到達度検査」については次回掲載するようお伝えしておりました。

今回はそれらの結果と分析、授業改善につながる取組について紹介します。

全国学力・学習状況調査平均正答率（６年生実施）

	国語	算数
本校	52	50
三次市	64	58
広島県	64	58
全国	60.9	56.4

三次市学力到達度検査平均正答率（５年生実施）

	国語	算数	社会	理科
本校	68.8	62.8	57.7	65.7
三次市	68.2	63.1	64.3	71.6
全国	65.5	62.6	59.4	67.3

設問ごとに細かく分析し、**本校の「強み」と「弱み」**を次のようにまとめました。

各教科の「強み」と「弱み」

	強み	弱み
国語	・漢字の読みは定着している。 ・「相手に伝わる話し方」を意識することで、接続語や慣用句の使い方の定着につながっている。 ・自分の考えを書いてまとめる習慣が身についている。	・漢字の書きに課題がある。 ・説明文の読み取りに苦手意識があり、読み取り方に課題がある。 ・前後の関係から条件に合わせて書くことに課題がある。
算数	・これまで学習したことの何が使えるか確認する習慣ができている。 ・表やグラフを積極的に活用していたことで、定着につながっている。 ・数や言葉、式等をつなげて考えることを繰り返すことで、数や言葉を用いて理由や求め方の説明ができている。 ・分数や％（百分率）の理解ができている。	・１８０度を超える角の学習の定着を図る必要がある。 ・データの活用の学習で「二次元表」から条件にある数を読み取ることに課題がある。 ・割合の学習で、基準量の求め方や「倍」の概念が理解できていない。
社会	・「防災」については総合的な学習でも学習しているので、他の単元より理解できている。	・資料の読み取りに課題がある。社会だけでなく他の教科でも資料を読み取る習慣をつける必要がある。
理科	・興味のあること、生活との結びつきが強いことなど、自分とかかわりの強いことの正答率が高い。	・実験結果を科学的な言葉を使って言語化することに課題がある。 ・実験や観察の活動は意欲的に取り組むが、結果を理解して考察することに課題がある。

これを受けて、「今後の授業改善の方向性」を次のようにまとめました。

国語で取り組むこと	算数で取り組むこと	社会で取り組むこと	理科で取り組むこと
・授業や「かくぞう朝会」の中で語彙シートや各学年で書かせたい内容を明確にした「書く」活動を取り入れる。既習の漢字は使う。 ・読書活動を継続して行う。	・系統を意識して、既習を活かした授業づくりを行う。 ・使わせたい算数用語を明確にし、数学的な見方・考え方を価値づけながら授業を行う。	・複数の資料を関連付けて読み取らせたり、資料をもとに自分の考えを書かせたりする活動を行う。 ・授業で資料を活用し、思考する場を増やす。	・予想→方法→実験・観察→結果→考察→ふりかえりの授業サイクルを大事にする。 ・実験後に自分で考察する時間を確保し、科学的根拠に基づき論理的な記述の仕方を児童に示し、書かせる。

１年生から６年生までの**系統性**を大切にしながら、全教職員で意識統一して取組を進めていきたいと考えています。

今回の「学力分析～授業改善」と関連することですが、学校だよりNo.４で**授業づくりをがんばる目標（研究主題）**として

「かかわり合い」「わくわくいっぱい」「ちからをつける」算数科の授業づくり
～思考力・判断力・表現力の育成に向けた協働的な学びの充実を通して～

を掲げ、その具体的な「学び」の姿として

○かかわり合い……相手に伝わるように筋道立てて、最後まで伝えきる。
友達の意見を、「なぜそうなったのだろう」「自分の考えとどう違うか」と考えながら聞く。
分からないときに自分から「どうして」と友達に聞くことができる。
ペアやグループでかかわり合いながら授業をつくる。
○わくわくいっぱい…学習したことを日常生活や他教科等でも使ってみる。（生きた算数）
学習したことを「自学」でやり直してみる。
課題意識を持ち、自分で「問い」や「まとめ」をつくることができる。
ふり返りを自分の言葉で書くことができる。
○ちからをつける……図や式、表やグラフ、絵、言葉を使って、関連付けながら表現できる。
「つまり～」と一般化していく表現や「例えば～」と具体化する表現ができる。
これまで学習したことを使って問題を解決する。

ということをお伝えしてきました。

これを受け、１０月には２つの大きな授業研究を行いました。

【１０月２２日（木）　川地中学校区合同研修会（兼）みよし結芽人育成研修会】

算数３年「三角形のせいしつやかき方を調べてデザイナーになろう」４年「広さの表し方や求め方を調べてデザイナーになろう」の授業を行いました。小中合同の研修会ということで、実は夏休みから授業の準備を進めていきました。右の写真をご覧ください。３校の先生方は「児童」役になり、実際の授業と同じように学習を進めていきました（「模擬授業」といいます）。児童の気持ちになって授業を受けることで、「もっとこうしたら分かりやすくなる」「こんな教材があったらいいのでは？」など、協議することで、授業展開を修正していき、今回の授業研究へとつなげていきました。


夏休みの研修会の様子です。

「算数用語」や「定義」にこだわった学びや**友達同士で考えを交流する「かかわり合い」**などをしっかりと感じることのできる授業となりました。





【１０月２７日（火）　校内研修】

算数２年「三角形と四角形～形マーケット何に目をつける？～」の授業を行いました。





三角形や四角形の「定義」や「性質」に着目して図形を分類していく活動でしたが、これは２２日の授業研究の３年の学習ともつながる内容です。こうした**「系統性」**も意識していきました。また、児童一人一人が自分でまとめやすいワークシートを選ぶという**「個別最適化」**にも挑戦しました。授業後には、先生方による協議をしながら、授業のふり返りをしていきました。「わくわく（算数の面白さ）」とともに「ちからをつける」ための取組をどう進めていくか、確かめることができました！